

タイトル	台湾版ブックスタートに関する基礎的考察 ~ 日本版ブックスタートと比較して
著者	北口, 己津子; 和田, 英穂; KITAGUCHI, Mitsuko; WADA, Hideho
引用	北海学園大学学園論集(199): 13-29
発行日	2026-03-27

台湾版ブックスタートに関する基礎的考察

～日本版ブックスタートと比較して

北口 己津子, 和田 英穂¹

1 はじめに

イギリスから始まったブックスタートは、日本をはじめ多くの国・地域に拡大している。赤ちゃんに絵本をプレゼントする「share books」という取り組みは、一見単純そうに見えるが、その規模は小さくなく、活動主体、活動方法、経費など様々な問題をかかえている。「share books」の理念を実現するために、それぞれの地域の状況、特性にあわせて行われ、独自の発展を遂げていることも容易に想像される。

日本のブックスタートは、2000年11月子ども読書年推進会議からの要請をうけ、東京都杉並区で試験的に実施され、2001年4月には全国12の自治体で始まった。以降全国に拡大し、2025年現在6割を超える自治体でブックスタートの取り組みが行われている。

一方、台湾のブックスタートは日本から遅れること6年の2006年9月に始まった。当初取り組みをリードしていたのは信誼基金会という団体で、2004年11月にイギリス Bookstart の会員になり、その後、台北市立図書館と台中县政府文化局と合同で台湾版ブックスタート「閲読起歩走」が開始した。実はその直前2003年には台中県沙鹿鎮立深波図書館が Bookstart をモデルに「図書起跑線」活動を行っており、2000年からは教育部が児童の読書推進活動に力を入れ、民間と連携し活動を展開していた。台湾版ブックスタートは子供たちの読書推進活動が台湾全土で広がりを見せていた頃に始まったのである。

信誼基金会がリードした台湾版ブックスタートは、その後教育部が予算面の後押しをすることで、ブックスタートの最大の課題である経費の問題がクリアされ、一気に発展した。実績ある民間団体と教育行政がタッグを組むことで、台湾全土の図書館や学校と連携し、ブックスタートは台湾で浸透していった。

ブックスタートに関する研究は、日本では、各地の事例、実践報告が中心であり、ブックスタートの全体像、課題、教育面、政治面などの研究は少なく、また、発祥である英国以外の他の国・地域のブックスタートとの比較を通じた研究はほとんど見られない。一方、台湾では、台湾版ブッ

¹ 山形大学非常勤講師、元尚綱大学現代文化学部教授

クスタートについての先行研究は少なからず存在しており、陳・林(2012)、陳・林(2014)などでは、その教育的効果の分析、図書館学、政策研究などからの多方面からのアプローチが見られ、林(2017)、池(2019)では修士論文にまでまとめられている。

日本より遅れてスタートした台湾版ブックスタートは、なぜこれほど台湾の中で注目を集めているのだろうか。本論では、台湾版ブックスタートについて、その広がりを経緯を明らかにする。そして、日本版ブックスタートとの比較を通じ、双方のブックスタートの特徴を明らかにすることを目的とする。

論文中の中国語資料の中国語訳は筆者の和田英穂によるものである。

2 台湾版ブックスタートのはじまり

台湾版ブックスタートは、信誼基金会在が端緒をつけているが、ここでは、どのような背景でどのように実施してきたのかについて述べる。

2.1 信誼基金会の取り組み

台湾版ブックスタートをリードする信誼基金会(以下基金会)は、それ以前から台湾の就学前教育で実績があり、1971年永豊餘集団²の創設者何傳(字は信誼)氏が「済貧助学」の精神で設立した団体である。以下基金会のWEBページ中の「信誼大事紀」(<https://40story.hsin-yi.org.tw/home#timeline>)を参考に、基金会について述べる。

1977年何壽川氏と妻の張杏如氏が後を継ぎ、台湾が農業社会から工業社会に転換するなど経済発展を遂げる中で、台湾社会が就学前教育の認識が欠如していることに危機感を抱いた。そこで、就学前教育の重要性を社会に広め、台湾の教育の質を高めることに力を注いだ。

その主な活動は以下の通りである。

1977年 「学前教育研究发展中心」(就学前教育研究发展中心)成立

1978年 雑誌『学前教育』創刊

1979年 「学前教育資料館」設立

1978年 台湾初の幼児専門出版社「信誼基金会出版社」設立

1981年 台湾初の児童遊戯施設「台南楽楽園」設立

1981年 幼児向け雑誌『小袋鼠』創刊

1984年 台湾初の「玩具図書館」(おもちゃ図書館)設立

1984年 「親子活動中心」(センター)設立。「親子図書館」「楽楽園」「玩具図書館」「活動中心」を併設。1990年に「信誼親子館」に改称。

² 正式名称は「永豊餘投資控股股份有限公司」(Yong Feng Yu)。1924年創業。製紙業を中心とする企業集団。社員数約3300人。2019年グループ営業利益約2700億円。台湾製紙業界の「龍頭」と呼ばれるリーダー企業。

1987年 「信誼幼児文学賞」設立。

2000年 第1回「嬰幼兒發展國際檢討會」(Hsin Yi Childhood Conference)開催。台湾内外の著名な研究者を招き，以降2019年までに8回開催。

2000年 内政部児童局と連携し「0123 專業父母推動計畫」スタート。以降，教育部等政府と連携した取り組み多数。

その他多数の出版物を発行，各種研修活動を実施しており，近年はインターネット上での活動，児童，親子向けアプリケーション開発なども実施するなど，その活動範囲は多岐にわたる。

以上のことから，基金会は台湾でいち早く就学前教育の重要性を認識し，台湾社会に広めるため実践的な活動を多岐にわたり長年継続しており，台湾における就学前教育のパイオニアかつリーダー的存在であることが分かる。ブックスタートは基金会のこのような理念・活動との親和性が高い。そして多くの実践的な活動実績があることで実施体制も整っており，また，行政との連携もあり，支援も得やすい環境の中で，台湾版ブックスタートは始まったのである。

2.2 信誼基金会とブックスタート

次に，基金会とブックスタートの取り組みについて，「Bookstart 閱讀起步走 12周年実録」などを参考に述べる。

上述のように基金会は1970年代から就学前教育について様々な実践的な活動を展開していたことから，海外の児童教育にも関心が高く，1997年に始まったイギリスのブックトラストによるブックスタートプログラム（以下ブックスタート）の導入も比較的早かった。基金会は2005年にブックスタートに加盟申請し，ブックスタートの台湾の代表組織になった。そして，2006年2月に開催された台北国際ブックフェアにイギリスブックスタートの発起人 Wendy Cooling 氏を招き，正式に台湾版ブックスタート「閱讀起步走」開始が宣言された。そして，同年9月には台北市立図書館及び台中県文化局と連携し台北市および台中県で台湾版ブックスタートが開始した。

台湾版ブックスタートは基本的に窓口から各種活動まで各地の公共図書館が担当し，基金会が連携し6か月から18か月の子どもとその両親を対象として，以下のようなサービスを提供している。

①「閱讀礼袋」（ブックスタートパック）のプレゼント

専用の布袋に絵本2冊（うち1冊は自治体，もう1冊は基金会が提供），両親向け読み聞かせハンドブック及び推薦絵本リストを含む。

②郷，鎮，市，区立図書館をブックスタートパックプレゼントの窓口

身近にある図書館を窓口にしてブックスタートパックを渡すと同時に，子どもたちに人生初の図書館の貸出カードを発行する。

③各図書館の児童閲覧スペース設置に協力

3歳以下に合った閲覧コーナーなどの設置に協力し，図書館での読み聞かせや貸出を促す。また，読み聞かせ講座や児童向けの各種活動などがしやすい提案を行う。

④「赤ちゃんの最初の絵本リスト」作成と提供

幼児教育、言語学者、新生児科の医師、図書館学専門家、児童書担当編集者などにより選書委員会を設置し、3歳以下に適した絵本を選び、リストを作成、提供する。

⑤各種研修活動の提供

各自治体や図書館のニーズに合わせて、図書館司書やボランティア向けの研修および両親向けの読み聞かせ講座をアレンジの上、実施する（詳細は後述）。

以上のように基金会在台北市と台中県と連携して始まったブックスタートは、自治体が経費を負担し、公共図書館がその窓口、活動場所になり、基金会在絵本など配布物及び各種サービスを提供する、という台湾版ブックスタートの基本形となった。基金会在実施当初から台北市や台中県という大規模自治体と連携を実現し、基金会在独自で絵本1冊を無償提供し、各種サービスを提供できた背景には、それまでの30年以上にわたる就学前教育の実績と大企業の後押しがあったことがうかがえる。

そして、その後も拡大を続け、2009年には彰化県、嘉義県、高雄県、台東県などの自治体に広がっていった。そして、2009年には台湾政府がブックスタートを全面的に推進することになり、一気に拡大するのである。

3 台湾版ブックスタートの発展

2009年台湾版ブックスタートは大きな節目を迎えた。台湾政府が2000年前後から取り組んでいた読書推進活動や図書館改革の一環としてブックスタートが活用されることになったのである。

3.1 台湾の読書推進活動

1996年台湾では総統の直接選挙が実現するなど、長年続いていた国民党一党独裁体制が崩壊しつつあり、2000年には民進党政権が誕生するなど政治的民主化が進展を見せていた。このような民主化の動き及びグローバル化に対応するために教育部（文科省に相当）主導による読書推進活動が進められていた。陳（2006）によれば、例えば、子どもの頃からの読書の習慣を身につけることを目的とし、1996年から読書指導が小学校の指導要領に加えられ、4月2日を児童読書の日に制定した。また2000年から2003年には幼稚園と小学校を対象として「全国児童閲読運動実施計画」が施行され、読書の重要性を台湾全土に広め、学校での読書の環境改善などが進められた。更に、台北市や高雄市など各自治体においても独自の読書推進活動、例えば2003年台北市の「児童深耕閲読計画」、2006年高雄市の「城市閲読運動」などの活動が展開されるなど、台湾の読書推進活動は2000年代初頭一定の広がりを見せていた。ブックスタートはまさにこの流れに乗り、教育部により台湾全土に拡大することになるのである。

3.2 教育部とブックスタート

3.2.1 教育部の読書推進活動とブックスタート

教育部が2008年11月に制定した「閲読植根与空間改造：2009-2012 図書館創新服務發展計画」（読書定着と空間改造：2009-2012 図書館イノベーションサービス發展計画）では次の目標を掲げた。

1. 公共図書館のサービス空間の改善
2. 地方とマイノリティエスニックグループの図書情報サービスの格差の解消
3. 民衆の読書力，学習力，民主の素養を引き上げる
4. 国立図書館のサービスと指導体制を整備し，図書館間の連携の垣根を排除する
5. 台湾を代表する出版物の国家的図書目録を作成，宣伝する

教育部はこの計画をもとに2009年公共図書館の読書推進活動と蔵書の充実のために「閲読推广与館蔵充実実施計画」（読書推广と蔵書充実実施計画）を策定したが，ブックスタートも同計画内の3つの計画の1つに加えられた。その3つの計画は以下の通りである。

- A 「閲読起步走～0-3 歳婴幼儿閲読推广活動計画」（ブックスタート～0-3 歳乳幼児読書推進活動計画）
- B 「建立公共図書館与学校閲読網路計画」（公共図書館と学校間のネットワーク形成計画）
- C 「多元悦読与館蔵充実計画」（読書の多元化と蔵書充実計画）

教育部（2009：1-3）より抜粋

2009年のブックスタートの計画により，103の縣市・郷鎮³の図書館が補助を受け，ブックスタートパックの配布，各種研修活動を実施した。同年の計画で成果を挙げたことをうけ，2010年以降も継続することになった。2010年度の主な補助内容及び実施計画は以下の通りである。

主管：国立中央図書館台湾分館（現国立台湾図書館）

補助基準：各直轄市と県（市）が補助する公共図書館6館を選択する

補助内容：

- ・各館300人分のブックスタートパック購入費用
- ・ブックスタート推進のためのポスター，ブックリスト，ハンドブック作成費用

³ 台湾の行政区画は，一番上に行政院直轄市（台北，高雄，新北，台南，台中，桃園，基隆，新竹，嘉義）と県が置かれ，その下に直轄市下に区，県下に規模に応じて市・鎮・郷が置かれている。

- ・各種研修活動費用

補助金額：

- ・各直轄市と県（市）30万台湾ドル（上限）
- ・各館18万台湾ドル（上限） ※2010年当時1台湾ドルは約2.7円

実施計画：各直轄市・県（市）自治体の役割

- ・縣市郷鎮区図書館の提出した計画の審査
- ・郷鎮区図書館への補助金の分配
- ・計画の実施説明会の開催
- ・ボランティア、シーズ人員の研修活動
- ・活動の式典、活動成果展の計画と実施
- ・国立中央図書館台湾分館に協力した各種活動

実施計画：区・市・鎮・郷の図書館の役割

- ・各縣市文化局（処）に計画書を提出
- ・読書スペースの設置
- ・区・市・鎮・郷役場及び学校、保健担当などは活動の宣伝に協力
- ・役場の戸籍担当は担当地区の0-3歳幼児の名簿を提供
- ・ブックスタートパックの発送作業
- ・ブックスタート推進活動の計画

(教育部2009:1及び7-8より抜粋)

以上の計画により、2010年は台湾全土で150館の図書館（25縣市×6館）が参画し、各館300セット（1セット2冊の絵本）、45,000セット（合計90,000万冊の絵本）が無償提供される計画が立てられた。(教育部2014b:2より抜粋)

3.2.2 教育部のブックスタートの実施計画

教育部のブックスタートでは、ブックスタートパック（絵本、読み聞かせハンドブック、推奨絵本リスト）のプレゼントと共にブックスタート活動および関連行事の説明を行うとしている。

2010年度の主な関連活動は以下の通り。(教育部(2009:9)より抜粋)

①図書館の利用と読み聞かせ指導

3歳以下の子どもがいる親を招き、読書に関する情報を提供し、読み聞かせ指導を行う。

②育児講座

3歳以下の子どもに関する成長、健康、教養などをテーマに専門家による講座を行う。

③読み聞かせ

3歳以下の子どもと親に向けて、読み聞かせを行う。

これらの活動を通じ、親子の読み聞かせを促し、読書の楽しみに気づいてもらい、また、親子

で図書館に来てもらうことで、親子間のコミュニケーション増進と図書館利用者増加が期待できる、としている。

また、同時に図書館司書およびボランティア向けにブックスタートに関する研修活動も以下のように行っている。

①ブックスタート図書館司書育成・研修

研修の名称	時間	主管	参加対象
第1課程 「乳幼児の成長と読書の発展」	2時間	国立中央図書館台湾分館	直轄市、県（市）及び希望する区・市・鎮・郷の図書館司書各1, 2名
第2課程 「乳幼児の本の選択と利用」	2時間		
第3課程 「図書館はどのように乳幼児の読書サービスを運営するか」	2時間		

②ブックスタートボランティア・シーズ人員育成・研修

研修の名称	時間	主管	参加対象
第1課程 「乳幼児とどのように絵本を読むか」	2時間	国立中央図書館台湾分館	直轄市、県（市）及び希望する区・市・鎮・郷の図書館司書各1, 2名
第2課程 「乳幼児へのお話の技巧と訓練」	2時間		
第3課程 「乳幼児の読み聞かせ活動の道具製作と運用」	2時間		

教育部（2009：8-9）より抜粋

3.3 教育部ブックスタートの成果 2009年～2012年、2013年～2016年

教育部のブックスタート推進計画である「閱讀起步走～0-3歳嬰幼兒閱讀推广活動計畫」は、もともとなる計画の「閱讀植根与空間改造：2009-2012 図書館創新服務發展計畫」が終了する2012年を持って一段落を告げた。ブックスタート参加図書館、参加人数は順調に増え、全体の計画である「閱讀推广与館藏充實実施計畫」も図書館利用者増大につながったことで継続することになった（詳細は後述）。しかし、その後の教育部のブックスタートは、絵本を2冊から1冊に減らし、対象年齢0-3歳を0-5歳に伸ばすなど調整のうえ実施されている。

ここでは、2009年から2012年および2013年以降の教育部のブックスタートの成果について述べる。

2009～2012と2013～2016を比較すると、参加図書館数は約4倍、ブックスタートパック配布数は約3倍に増えていることが分かる。これは、配布する絵本が1冊になったことで配布できる人数が増え、同時に対象年齢を増やしたことで、参加図書館増、配布数増、活動参加者増につながったことがうかがえる。

このように教育部によるブックスタートの拡大と予算措置の継続により、台湾版ブックスター

【表1 2009～2012年教育部ブックスタート成果統計表】

	2009年	2010年	2011年	2012年	合計
参加図書館数 (単位：館)	103	138	150	114	505
ブックスタートパック配布数 (単位：セット)	46,317	50,466	53,241	69,980	220,004
乳幼児貸出カード発行数 (単位：人)	37,493	44,022	32,972	48,547	163,034
関連推進活動回数 (単位：回)	3,712	3,862	4,565	7,605	19,744
関連推進活動参加者 (単位：延べ人数)	275,390	268,724	392,736	475,443	1,412,293

(教育部 2014：3より抜粋)

【表2 2013年～2016年教育部ブックスタート成果統計表】

	2013年	2014年	2015年	2016年	合計
参加図書館数 (単位：館)	434	422	537	525	2,018
ブックスタートパック配布数 (単位：セット)	89,067	203,315	150,000	182,000	624,382
乳幼児貸出カード発行数 (単位：人)	/	/	/	/	/
関連推進活動回数 (単位：回)	7,036	2,458	3,256	7,815	20,565
関連推進活動参加者 (単位：延べ人数)	452,412	315,376	536,801	456,485	1,761,074

(教育部 2017：3より抜粋)

トは基本的に台湾全土に広まったのである。

4 台湾版ブックスタートの現状と課題

以上のように、台湾版ブックスタートは基金会在自治体と連携して本格的に始まったが、順調な広まりを見せたところに、教育改革に伴う図書館改革を推進する政府(教育部)がブックスタートをその一環に取り入れたことで、台湾全土に一気に拡大した。しかし、民間主導のブックスタートに政府が一気に関わりを持ったことで、何かひずみは生じていないのだろうか。以下、陳・林(2014)の図書館職員に対するアンケート調査および教育部ブックスタートの「閲読推广与馆藏充实实施计划」の成果報告(2009-2012, 2013-2016, 2017, 2018)、及び基金会的「信誼大事紀」をもとに台湾版ブックスタートの現状と課題について述べる。

4.1 教育部ブックスタートの現状と課題

4.1.1 教育部のブックスタートパック

【表3 ブックスタートパック配布数】

	2009-2012年 (平均値)	2013-2016年 (平均値)	2017年	2018年
ブックスタートパック配布数 (単位：パック)	55,001	156,095	112,000	100,000

出典：教育部（2014b, 2017, 2019a, 2019b）内の関連データより作成

前述の通り、2009-2012年は対象年齢が0歳から3歳で絵本2冊だったが、2013年以降は対象年齢が5歳までで絵本1冊になった。深刻な少子化が進む2019年台湾の出生人数は177,767人⁴であることから、毎年約10万パックの配布により、2009年以降の台湾の出生者は概ねブックスタートパックを受け取れる環境が整備されたことがうかがえる。

【表4 2018年ブックスタートパック補助比率】

予算規模	行政区画 ⁵	補助比率
第1級	台北市	40%
第2級	新北市, 台中市, 桃園市, 新竹市	50-52%
第3級	台南市, 高雄市, 新竹県, 基隆市, 嘉義市, 金門県	59%
第4級	宜蘭県, 彰化県, 南投県, 雲林県, 花蓮県	62%
第5級	嘉義県, 屏東県, 台東県, 澎湖県, 苗栗県, 連江県	62-67%

出典：教育部（2019b：3）

教育部がブックスタート関連の経費をすべて補助している訳ではなく、表4によれば、自治体の予算規模によってその補助比率の大小を決めていることが分かる。不足分はそれぞれの自治体の予算でまかなっていることが分かると同時に、自治体独自の計画の余地があることを意味している。

4.1.2 教育部のブックスタートと図書館

教育部のブックスタートは国立台湾図書館が主管となり、各自治体及びその公共図書館と連携して実施されている。公共図書館がブックスタートの現場となり、ブックスタートパックの購入・配布や各種研修活動の計画、立案、実施、成果報告までを国立台湾図書館と連携し行ってい

⁴ 内政部統計局「内政統計查詢網」(<https://statis.moi.gov.tw/micst/webMain.aspx?sys=100&funid=defjsp>, 2025年12月2日最終確認)

⁵ 2010年台湾の行政区画が改正され、直轄市が増加した（台北県⇒新北市, 台中県+台中市⇒台中市, 台南県+台南市⇒台南市, 高雄県+高雄市⇒高雄市）。また、準直轄市として桃園県が桃園市、になった。

る。

台湾版ブックスタートは日本のような集団検診の制度がないため、窓口・担当として図書館に白羽の矢が立っているが、一方で教育部の図書館改革の一環として位置付けられている点に特徴がある。

前述の「閲読推广与館蔵充実実施計画」(読書推進と蔵書充実実施計画)には、ブックスタート関連の「閲読起步走～0-3歳嬰幼兒閲読推广活動計画」(ブックスタート～0-3歳乳幼兒読書推進活動計画)以外に、「建立公共図書館与学校閲読網路計画」(公共図書館と学校間のネットワーク形成計画)及び「多元悦読与館蔵充実計画」(読書の多元化と蔵書充実計画)という読書推進を目的とした図書館改革の計画がセットになっている。3つの計画が連動し、かつそれぞれも大きな改善を見せた。その一つの指標が図書館利用者の推移である。

【表5 図書館利用者の推移(1人当たり)】

	1997	1998	1999	2000	2001	2018
蔵書密度	1.23冊	1.29冊	1.35冊	1.42冊	1.51冊	2.3冊
貸出密度	1.81冊	2.02冊	2.24冊	2.33冊	2.47冊	3.39冊
貸出登録率	26.27%	33.11%	38.01%	39.76%	43.68%	62.4%

出典：教育部(2014a)及び「公共図書館設計系統」
(<https://publibstat.npi.edu.tw/Frontend/Home/Index#tw>)より作成

表5によれば、全ての数値において上昇している。蔵書密度(蔵書冊数÷人口)では、図書館の環境改善がうかがえるが、それにより図書館利用者が増加したことが貸出密度(貸出冊数÷人口)、貸出登録率(貸出登録者数÷人口)が示している。特に貸出登録率は1997年から20年余りで2.3倍以上増え、全人口の6割超が図書館の貸出カードを有すことになるが、ブックスタートの貢献は大きいのではないだろうか。

近年図書館のIT化、電子化が進む台湾の公共図書館の現状分析やブックスタートとの関連は本論の主題から外れるので、今後の研究課題としたい。また、ブックスタートの対象年齢を5歳まで引き上げ、公共図書館の充実と学校間のネットワーク充実を狙ったこれらの計画は、台湾全体の教育改革とも関連があるが、別稿に譲る。

4.1.3 ブックスタートの現場としての図書館の現状と課題

ここでは、陳・林(2014)のアンケート調査の結果を参考に、台湾版ブックスタートの現場としての図書館の現状と課題について考えてみたい。同論文のアンケート調査は2009年から2012年までに実施された「閲読起步走～0-3歳嬰幼兒閲読推广活動計画」で補助を受けた図書館を対象としたもので、210館(回収率85.02%)から回答があった。

【表6 ブックスタート成功のカギ】

項目	回答人数	比率
教育部の経費補助	187	89.0%
具体的なサービスと活動モデル	134	63.8%
読者のニーズ	114	54.3%
館員の態度	113	53.8%
自治体のサポート	103	49.0%
本館、教育・文化局のサポート	95	45.2%
ボランティアの協力	84	40.0%
館員の知識と能力	79	37.6%
専門職員の養成	64	30.5%
専門組織の協力	64	30.5%
その他	2	1.0%

出典：陳・林（2014：62）

【表7 図書館が推進するブックスタートの課題】

項目	回答人数	比率
補助経費の不足	134	63.8%
専門講師の不足	115	54.8%
専門館員の不足	112	53.3%
行政と経費申請が煩雑	112	48.6%
ボランティア募集が困難	97	46.2%
読者ニーズが不足	95	45.2%
新生児が少ない	73	34.8%
経費送付が遅い	58	27.6%
館員の参加とやる気が低い	38	18.1%
その他（館員の人員不足・頻繁な異動、保護者の参加・やる気不足、ブックスタートパック不足など）	32	15.2%
首長のサポート不足	23	11.0%
本館、教育・文化局のサポート不足	15	7.1%
本館、教育・文化局との連携不足	3	1.4%

出典：陳・林（2014：63）

表6、表7から、教育部の補助や自治体のサポートが欠かせないことが分かる。教育部の補助は表4のように自治体の予算規模によって傾斜配分されており、不足分は各自治体がまかなっていることが分かるが、自治体負担分については地域毎で異なっていることから、図書館のブックスタート実施体制は館毎で異なっていることがうかがえる。

また、専門知識と専門職員の養成がカギとする回答が30%以上あり、専門講師・館員の不足が課題する回答が50%以上あることから、現場での十分な人手と専門知識のある館員が十分ではないことがうかがえる。

【表8 ブックスタートの図書館への影響】

項目	回答人数	比率
図書利用率の向上	177	84.3%
貸出登録人数の増加	164	78.1%
来館者数の向上	162	77.1%
活動参加者数の向上	137	65.2%
騒音とマナー問題	113	53.8%
図書館内の配置問題	78	37.1%
館員の専門知識増加	59	28.1%
館員イメージの向上	55	26.2%
読者のクレーム増加	32	15.2%
その他	3	1.4%

出典：陳・林 (2014：64)

表8によれば、ブックスタートは明らかに図書館利用率向上につながっていることが分かる。一方、読み聞かせ活動と静寂な環境の維持の両立に苦慮していることがうかがえる。

【表9 ブックスタートパック受領の条件】

項目	回答人数	比率
乳幼児の年齢が合えば受領可	56	26.7%
貸出カード手続きすれば受領可	54	25.7%
乳幼児父母講座に参加し、貸出カード手続きすれば受領可	42	20.0%
活動に参加し貸出カード手続きすれば受領可	33	15.7%
その他	25	11.9%

出典：陳・林 (2014：59)

多くの図書館で利用者数増やブックスタートへの理解向上のために、ブックスタートパック受領に貸出カード手続きや各種講座、活動への参加を条件にしていることが分かる。このことが前述のような図書館全体の利用者向上につながっていることがうかがえる。

4.2 基金会ブックスタートの現状と課題

以上のように台湾全土に拡大した教育部のブックスタートだが、基金会のブックスタートも継続しておりイギリス Booktrust の Bookstart 加盟団体は 2025 年現在も基金会である⁶。両者の活動はどのような関係にあるのだろうか。

⁶ <https://www.booktrust.org.uk/about-us/booktrust-affiliates/>内の加盟団体を参照。

4.2.1 教育部と基金会の関係

前述のアンケート調査に基金会との関係を問う設問があるが、以下のような回答だった。

【表 10 信誼基金会と連携しているか】

項目	回答人数	比率
はい	148	70.5%
いいえ	62	29.5%

出典：陳・林（2014：60）

【表 11 信誼基金会との連携内容は】

項目	回答人数	比率
ブックスタートパック用絵本1冊・ブックリスト・親子読み聞かせハンドブックの無償提供、及びブックスタートパック用絵本の割引購入	106	71.6%
乳幼児父母講座の専門講師派遣の手配	85	57.4%
0-3歳乳幼児読書コーナー設置計画サポート	34	23.0%
ボランティア研修のサポート	30	20.3%
ブックスタートパックの袋制作サポート	23	15.5%
その他（親子合唱活動、基金会HPから図書館宣伝など）	13	8.8%

出典：陳・林（2014：60）

表 10 によると、教育部の補助を受けながら、7割以上の図書館が基金会と何らかの形で連携していることが分かる。特に、表 11 によればブックスタートパック用の絵本1冊などの無償提供で7割以上の図書館がサポートを受けていることが分かる。前述のように、教育部のブックスタートは最初の2009-2012年の計画時では絵本2冊の提供だったのが、翌年から1冊に減らされている。図書館では2冊の提供を維持するため、基金会のサポートを受け、合わせて2冊の提供を維持していることがうかがえる。また、教育部から求められている乳幼児読書コーナーや各種講座、研修の実施についても、基金会が提供するサービスを利用していることが分かる。

基金会は教育部のブックスタートについて、次のように述べている。

「教育部の介入と指導は乳幼児の読書の普及に大きな影響があった。しかし、支給方法が不一致、情報も不足し、関連施策のまとまりが悪く、成否は各地の担当者次第になっているため、格差が大きい。この計画（「閲読推广与馆藏充实实施计划」）は、更に4年継続され、対象も0-5歳に拡大する。しかし、幼児の5年という時間は成長が早く、言語、認知、知識、興味など全てにおいて異なる。一枚のリストで発展段階の異なる子供すべてに合わせるのは困難である。台湾におけるブックスタートに関する論文でもブックスタートの意図、方法、

効果は肯定され、特に読書推進の断層を埋めることができることが指摘されている。しかし一方で、対象を拡大したことによるサービスの不足及びエスニックグループに対する視点の欠如が指摘されており、政府の努力を期待したい。」(「Bookstart 閲讀起步走 12周年実録」: 3)

2009年から教育部が台湾のブックスタートを一気に広めた一方で、経費や専門の見地からのサポートが不足しているところを基金会在が支えているのが実情ではないだろうか。

4.2.2 信誼基金会的ブックスタート

教育部のブックスタート開始後、現在の基金会的のブックスタートは協力要請のあった自治体に対して次のように実施されている。

ステップ1: ブックスタートパック(絵本2冊、「最初のブックリスト」、「親子読み聞かせハンドブック」)の準備

- ①ブックスタートパック中の絵本1冊及び2冊の冊子は基金会在が提供し、もう1冊の絵本は図書館が購入(基金会在経由50%オフで購入可能)。
- ②専用の袋については、基金会在から購入するか、基金会在の袋の規格、ロゴを提供し独自で製作する。
- ③ブックスタートパック1セットおよそ200台湾ドル(絵本1冊、袋も含む)

ステップ2: 0-3歳幼児読書スペースの設置協力

乳幼児のための空間設計、適齢絵本の推薦と購入などを協力

ステップ3: ボランティア研修(3段階: 各段階2時間)

ブックスタートパック内の絵本、ハンドブック、ブックリストを主な内容として、図書館職員やボランティアにブックスタートの精神、意義などの理解を促す。講師を手本に、実技訓練、討論を行い、ブックスタートパックの提供や親子読み聞かせ活動に生かす。

ステップ4: 乳幼児読み聞かせ父母講座の専門講師派遣

各自治体の要請を受け、読み聞かせの専門家を講師として派遣。(5種の講座があり、各2時間)

また、独自の取り組みとして、病院と連携し、病院内の乳幼児読書スペース設置の協力、絵本購入サポート、ボランティア研修・親子講座講師派遣なども行っている。

5 日本版ブックスタートとの比較

次に、日本版ブックスタートと台湾版ブックスタートの比較を通じ、それぞれの特徴と課題について初歩的な考察を試みてみたい。

5.1 ブックスタートの実施方法について

日本版、台湾版共にブックスタートの理念に共鳴したNPOによって始められているが、発展過程が異なっている。日本版は、ブックスタートを採用した地方自治体が予算措置を行い、「図書館・図書室」や「生涯学習課・社会教育課」などが主管となり、保健関連（集団健診、健康相談、家庭訪問など）の機会にブックスタートパックを贈呈している。台湾版は、中央政府が予算措置を行い、地方自治体を經由して公共図書館が主体となり行っている。

台湾版は、読書推進活動と緊密に連動して行われている点に特徴があり、上述のように図書館のかかわりが強く、図書館利用促進にもつながっている。表2によると、参加図書館数は2016年段階で525館だが、これは台湾の全図書館数538館の97%に達しており、ブックスタートパック配布数も18万パックに達している。台湾の2016年の出生数が約19万人⁷であることを考えると、その実施率の高さ、普及の速さには目を見張るものがある。しかし、図書館が主管し、ブックスタートパック贈呈の場所も図書館になっていることから、図書館や本に関心の薄い層に対するアプローチに課題があるのではないだろうか。

一方、日本版は地方自治体が主導し、多くの場合健康診断時にブックスタートパック贈呈が行われている点に特徴があり、全員が受講する健康診断時に行うことで、実施地域においては漏れない形で行われている。しかし、自治体任せになっているため、実施率は2024年で約64%⁸、居住地によってブックスタート及びその後継サービスを受けられるかどうかには差が生じている。人口規模の大きい自治体ほど実施率は低い傾向にあり、例えば、東京都は62自治体中35自治体、大阪府は43自治体中21自治体である。

5.2 ブックスタートの課題

表7によれば、台湾版ブックスタートの課題としては、補助経費、専門講師やスタッフの不足、ボランティアの募集、煩雑な手続きなどがあがっている。これは、日本版も類似の傾向にあり、NPOブックスタート「参考データ」中の「実施自治体アンケート調査結果（2019年度）」によれば、「ブックスタート事業後のフォローアップ」「ボランティアの募集」「職員・ボランティアの研修」「対象者に応じた説明の仕方や接し方」「予算の確保」などとなっている。ブックスタートの

⁷ 01. 縣市人口按性別及五齡組 (<https://www.ris.gov.tw/app/portal/346>, 2025年12月14日最終確認)

⁸ 「参考データ」中の「ブックスタート普及状況」より。ただし、ブックスタートではなく、絵本贈呈のみを含むと87%にのぼる。

主体である日本の「NPO ブックスタート」、台湾の信誼基金会による「閲読起步走」がそれぞれのブックスタート事業をリードし、自治体や図書館などと連携して展開しているが、「ブックスタート」事業や、対象年齢別の「読み聞かせ」などへの研修事業について、全国に対応することは困難である。また、実際の「読み聞かせ」はボランティアの存在が欠かせない状況だが、共に人材の確保が課題になっており、ブックスタート後のフォローアップ体制の構築、そして予算の確保が共通かつ最大の課題となっている。

6 おわりに

台湾版ブックスタートは、基金会によって始動された後、台湾政府の全面的な支援が入ったことで、一気に台湾全体に拡大した。台湾における読書推進活動と連動し、各地の公共図書館が活動主体となったことがその大きな要因であろう。なぜ台湾政府がブックスタートにこれほど力を入れたのか、今後の研究課題としたいが、台湾の民進党政権による「脱中国化」や「本土化」(台湾化)に伴う図書館政策との関わりが考えられる。政治的な目的があったにせよ、ブックスタートは読書推進活動の中で注目を集め、政策面、教育面など多方面での研究が進展しており、ブックスタートの教育的効果に関する研究も含まれている。

一方、日本版ブックスタートは、各自治体での事業として進められる中で、各自治体の実情に合わせて行われるなど、その性格は台湾版とは異なる面があることが明らかになった。日本における研究は、個別の実践報告がその中心である。本論では、台湾におけるブックスタートの広がりや経緯を一定程度明らかにすることができ、台湾におけるブックスタートにおいて、現場である図書館の利用率が向上していることなどその特徴も明らかになった。台湾における先行研究を参考に、日本版ブックスタートにそのような特徴がみられるのかどうかそれに関する調査及び検討も必要である。

【参考文献】

- NPO ブックスタート編『ブックスタートの20年』(NPO ブックスタート, 2020年)
石毛久美子「日本におけるブックスタート事業の特徴と課題(1)」(『武蔵短期大学研究紀要』第38輯 2024年)
梶浦真由美「恵庭市におけるブックスタートを検証する: 2005年と2020年のデータの比較を通して」(『札幌大学女子短期大学部紀要』70巻, 2022年3月)
矢倉淳子「日本におけるブックスタートの多言語対応と韓国及び台湾のブックスタート」(『アジア情報室通報』第21巻第4号, 2023年12月)
陳麗君, 林麗娟「台湾公共図書館推動「閲読起步走」計畫之調查研究」(『圖書與資訊學刊』85期, 第6巻第2期, 2014年11月)
陳麗君, 林麗娟「公共図書館嬰幼兒閲読服務及相關研究」(『圖書與資訊學刊』81期, 第4巻第2期, 2012年11月)
柯于璋「我國「閲読起步走」政策創新與擴散之研究-政策知識管理的研究途徑」(『公共行政學報』51期, 2016年9月)

陳永昌「讓每一位孩子都是小小愛書人-「Bookstart 閱讀起步走」在臺推動三年紀實」（『台北市立圖書館館訊』26(3)，2009年）

張美月「公共圖書館兒童服務的實踐—以高雄縣路竹鄉立圖書館「送書香到教室」為例」（『台北市立圖書館館訊』27(2)，2009年）

陳書梅「从台湾阅读推广活动之现况谈公共图书馆之阅读指导服务」（『図書館建設』（5），2006年）

林彦汶「「閱閱」欲試！線上起步！我國閱讀起步走計畫之績效評估」（国立暨南國際大學公共行政與政策學系修士論文，2017年）

池孟穎「圖書館推行 Bookstart 閱讀起步走活動實施情形之初探研究」（国立清華大學修士論文，2019年）

【インターネット資料】

「NPO ブックスタート」WEB ページ (<https://www.bookstart.or.jp/>，2025年12月14日最終確認)

NPO ブックスタート「参考データ」(https://www.bookstart.or.jp/wp-content/uploads/2025/07/bookstart_sanko_deta_2024.pdf，2025年12月14日最終確認)

NPO ブックスタート「「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート」(https://www.bookstart.or.jp/wp-content/uploads/2021/09/bookstart_kenkyureport.pdf，2025年12月14日最終確認)

「閱讀起步走」WEB ページ (<https://www.bookstart.org.tw/>)

「98-101年閱讀推廣與館隣充實實施計畫成果」（教育部2014a，<https://wwwacc.ntl.edu.tw/public/Data/82713284371.odt>，2025年12月2日最終確認)

「102-105年閱讀推廣與館隣充實實施計畫成果」（教育部2017，<https://www.ntl.edu.tw/public/Attachment/71271148314.pdf>，2025年12月2日最終確認)

「106年閱讀推廣與館隣充實實施計畫成果」（教育部2019a，<https://wwwacc.ntl.edu.tw/public/Attachment/9748593736.pdf>，2025年12月2日最終確認)

「107年閱讀推廣與館隣充實實施計畫成果」（教育部2019b，<https://wwwacc.ntl.edu.tw/public/Attachment/974912431.pdf>，2025年12月2日最終確認)

「国立中央図書館台湾分館99年Bookstart活動作業計畫書」（教育部2014b，<https://www.ntl.edu.tw/public/Data/82714255271.odt>，2020年4月18日最終確認)

「Bookstart 閱讀起步走12周年実録」(<https://www.bookstart.org.tw/BookDetail?id=7119142400318545931>，2025年12月2日最終確認)

「信誼大事紀」(<https://40story.hsin-yi.org.tw/>，2025年12月2日最終確認)

「教育部補助公共圖書館閱讀推廣與館隣充實實施計畫」（教育部電子報2009年WEBサイト <https://epaper.edu.tw/> より）

「恵庭市ブックスタート」(<https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/soshikikarasagasu/kyouikuinikaikyoubu/kubu/dokushosuishinka/dokushosuishin/1/3/index.html>，2025年12月13日最終確認)

